

## 琉球近海におけるイカ類の基礎研究 II

### 当 真 武

トビイカ *Symplecteuthis oualaniensis* (LESSON) は琉球近海で漁獲され、沿岸漁業の重要魚種の一つである。当水試では1969年から継続してイカ類の資源生物学的漁業学的調査を実施している。本調査はその一環として行なったもので外套長、体重その他の形質を測定し本種の成長様式を明らかにすることを目的とした。1971年3月から同年10月にかけて調査した概要を報告する。報告にさきだち標本の採取に協力していただいた糸満漁協の上原隆氏と水試の当真嗣誠、金城武光両氏に深く感謝する。

### 材 料 お よ び 方 法

1971年6月から10月まで毎旬糸満漁協に水揚される漁獲物から取得した10kgのトビイカと1971年3月から11月まで調査船函南丸(159.3トン)およびくろしお丸(21.4トン)によって漁獲された標本を冷凍して実験室に持ち帰り測定した。琉大は尖閣列島学術総合調査を3月末から4月にかけて実施した。その際持ち帰った標本についても検討した。

果 結

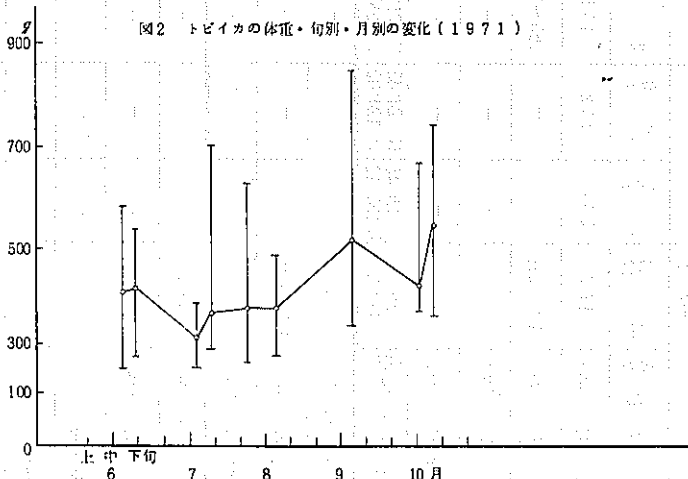
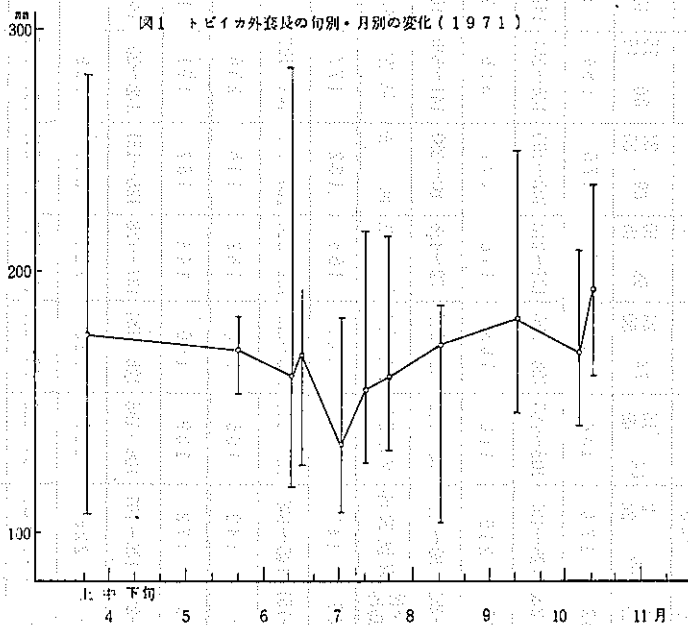
表1 1971年・トビイカ測定結果

測定した結果は次の通りである。

採集年月日	3-30 ~4-3	4-8	6-7	6-13	6-26 ~28	6-29 ~30	7-17	7-23	8-7	8-27	9-28	10-20	10-27	12-16	全 体
測定尾数 ♀	♂ 31 ♀ 14 17	0 1 1	0 1 1	0 2 2	4 16 12	26 24	15 64 49	24 74 50	10 58 48	34 69 35	15 30 15	0 10 10	23 40 17	7 0 7	147 427 285
外套長平均 (mm)	167	147	178	171	182	170	134	56	161	175	184	170	197	168	169
最小~最大 (mm)	107~281	-	-	155~186	119~285	126~197	108~185	128~220	132~218	102~190	148~251	142~211	161~239	132~225	102~285
重量平均 (g)	-	-	-	-	208	219	110	163	178	177	318	219	341	215	215
最小~最大 (mm)	-	-	-	-	56~381	80~334	56~185	92~502	72~428	80~280	141~649	210~464	161~538	94~510	-
採集位置・場所	N 25°40' E 123°34'	N 25°45' E 125°12'	N 24°42' E 124°02'	N 26°17' E 126°22'	ケラマ沖 久米島沖	喜屋武沖	久米島沖	喜屋武沖	同 左	同 左	同 左	久米島沖	喜屋武沖	久米島沖	-
雌外套長平均 (mm)	157	-	-	-	146	147	133	147	165	152	177	-	188	-	157
最小~最大 (mm)	107~224	-	-	-	132~151	145~148	122~143	143~220	132~218	135~176	149~196	-	169~212	-	-
雌重量平均 (g)	-	-	-	-	-	149	105	126	189	148	236	-	293	-	178
雌外套長平均 (mm)	167	-	-	-	195	172	139	160	144	157	191	170	211	168	197
最小~最大 (mm)	121~281	-	-	-	119~285	126~197	108~185	128~184	137~178	128~181	148~251	144~211	161~239	132~225	108~285
雌重量平均 (g)	-	-	-	-	-	226	139	180	124	206	399	-	406	215	237
最小~最大 (mm)	-	-	-	-	-	80~334	56~185	93~251	105~227	94~240	150~649	-	161~538	94~510	56~649
その他・採集物	スジイカ3匹 アカイカ1#	-	-	スジイカ1 アカイカ2	スジイカ1	スジイカ2	-	-	-	-	-	-	アカイカ1	-	-
表面水温	24.6°C	24.5°C	27.7°C	27.7°C	27.8°C 28.7°C	29.1°C	30.4°C	-	-	-	-	-	25.9°C	-	-
備考	孫水試炎 蘭列島調査	同 左	同 左	同 左	くろしお	同 左	同 左	糸満漁協	同 左	同 左	同 左	くろしお	糸満漁協	くろしお	-

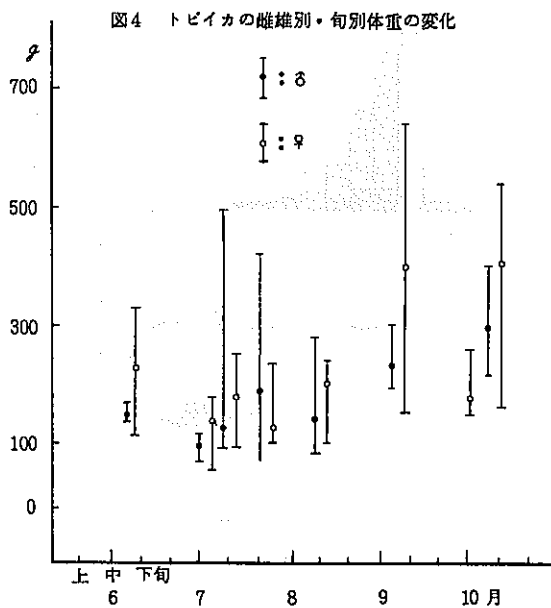
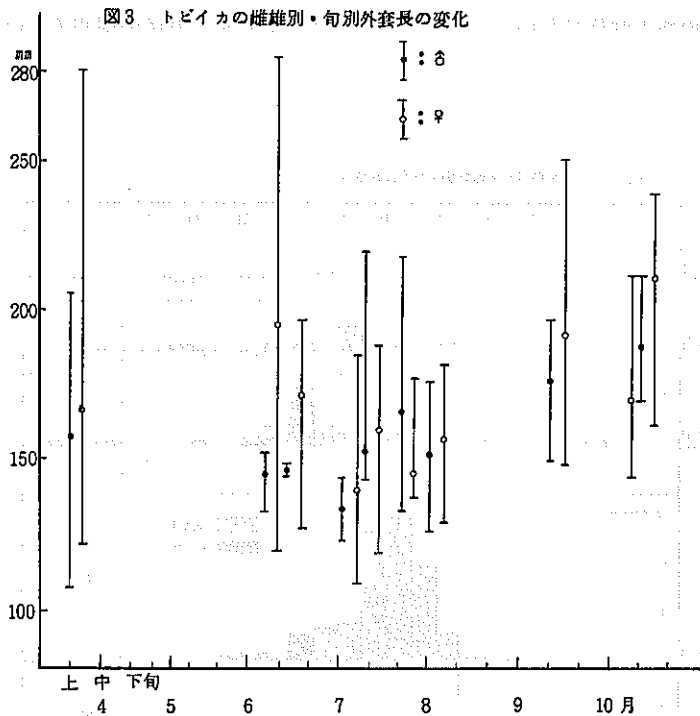
1971年6月以降八重山から沖縄島にかけて沿岸海域でヘタ類の浮上が多く、異常気象によると思われる現象が続いた。沿岸の漁獲量においても大きな変動があったようである。イカ釣り業の盛んな糸満でもトビイカ魚の漁期に入ったのは7月15日から例年に比べ10日から20日遅れた。また、漁期終了は10月に入って延10隻が出漁し162Kgを漁獲したのにとどまった。漁期を通うしての延出漁日数48日、延出漁隻数855隻、漁獲量22124Kgであった。これは過去6年間で最も不漁の年である。

表1からトビイカの月別・外套別体重組成をみると図1、図2の通りである。



これまで述べた理由で9月、10月の標本が少なく、はっきりしたことはいえないが全体的には1970年と同様に漁期始めから漁期終りにかけて次第に大きくなる傾向を示した。また各漁期を通して外套長が23cm台の個体が採集された。

雌雄別の外套長、体重の変化は図3、図4に示すように8月上旬を除いて雄が大きくそして重い。



3・4月に尖閣列島近海で採集された個体と6・7月に喜屋武岬沖で採集された個体は外套長で平均16.8～19.5cmであった。例年の漁期始めの大きさからするとかなり大きい個体群である。それらについては漁期始めまで続いた異状気象が大きな原因と思われるが詳しいことは不明である。今後の資料の充実がのぞまれる。7月以降は大体において1970年の測定結果と同様な傾向を示した。

図5に概交接の個体数を示した。(3・4月は未調査)これによると6月から12月まで漁期を通して交接こん跡のある個体が多い。これはこれまで予想した通り産卵期間の長いことを示すものと思われる。

図5 トビイカの月別・雌雄別・外套長組成(1971)

